

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970101927
法人名	社会福祉法人緑栄会
事業所名	グループホームわかば
所在地	〒 400-0051 山梨県甲府市古上条町163-1 電話番号 055-243-1001

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年3月17日

【情報提供票より】平成21年1月30日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16人	常勤	14人 非常勤 2人 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要 平成21年1月30日 現在

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	7 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	55 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立甲府病院・ばんどう整形外科クリニック・本田歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成21年3月8日

市郊外の住宅地の一角に、鉄骨2階建のホームがあり、隣りにデイサービス施設も併設されている。周辺は、学校や商店、スーパー、大型衣料品店があり、散歩や買い物時には、地域との交流もある。管理者は、職員と共に、安らぎのある生活を維持し、住み慣れた地域の中で、個々の可能性を活かし、達成感のある暮らしを支援し、「まごころ」を伝えるという理念を大切にしている。毎月、定期的に内部研修を行っている。(病気について、行事や生活面について等)。さらに、外部研修も全職員が段階的に受講することが大切と考え、職員の更なる質の向上・サービスの質の向上を目指している。また、より地域に密着したホームを目指し、管理者、職員は取り組みに対し、前向きな姿勢である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 夜間を想定した防災訓練の実施があげられていたが、消防署による訓練を実施した。トイレの臭いは、換気と消臭剤にて解決した。また、玄関入口のスロープ脇の段差は、フラワーポットを置き、事故防止につなげた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員一人ひとりに評価票をコピーして渡し、1か月位の間に項目毎に記入をしてもらい、管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者の日常の様子、運営、活動の報告をし、防災や地域との交流について相談した。メンバーの民生委員を通し、自治会に加入したり、地元の消防団も訪れてくれ、ホームの内容に理解を示し、万が一の備えに対し、協力の確認が得られた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時の他、毎月ユニット毎に、発行のグループ便りや個々の担当者が様子を書いた手紙を、家族に送付している。意見や要望は、電話や面会時に受けることが多く、確認しながら運営に反映している。話し合いでの解決がほとんどで、意見箱は設置してあるが、活用されたことはない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入、敷地内に通学路として開放、散歩、買い物時の交流、菜園の収穫物を配ったり、お礼をいただいたり、夏祭りに招待等の交流はあるが、充分には至らず、職員からもっと交流を深め、ホームの理解を得たいという声がある。今後、更に連携を深める為、取り組みを検討中である。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームわかば

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	愛情のこもった対人関係や、口腔ケアを通して、老化や認知症の進行予防に努め、安らぎのある生活を維持し、住み慣れた地域の中で一人ひとりが可能性を活かし、達成感のある暮らしを支援することを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、月1回のミーティングの他、日常的に職員にわかりやすい言葉で話し、確認をしている。文書にして玄関やフロアーに掲げてあると共に、各ユニット毎「まごころ」を伝える取り組みを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入、敷地内を通学路として開放、散歩や買い物時の交流や菜園での収穫物を配り、コピー用紙をいただいたりし交流がある。夏祭りに招待し、自治会よりジュースの差し入れもあった。もっと地域に理解してもらえる取り組みをしたいという職員の声があり、検討中である。	○	地域住民の一員として、ふつうに暮らせるよう支援することが重要である。回覧板等での地域の情報を得ると共に、気軽に訪問してもらえるようホームからも、積極的に働きかける工夫も大切と考える。地域に密着し、より深い交流が図られるよう、取り組みに期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に評価票のコピーを渡し、全項目に記入してもらい、管理者がまとめた。改善点は、夜間を想定した防災訓練の実施があげられていたが、消防署による訓練を実施した。トイレの臭いは、換気と消臭剤にて解決。また、玄関入口のスロープ脇の段差は、フラワーポットを置き、事故防止につなげた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常の様子、活動状況を報告し、防災や地域交流について相談している。メンバーの民生委員を通し、自治会に加入したり、地元消防団も訪れてくれ、ホームの内容を理解して、万が一の備えに対し、協力の確認が得られた。会議録は整理して全てのメンバーと家族に発送する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の担当者が、運営推進会議のメンバーとして参加しており、情報交換やアドバイスを受けている。また、介護保険更新の他、成年後見制度の利用者もあり、相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の際や、毎月ユニット毎に発行するグループ便り、個々の担当者が1か月の様子を書いた手紙、利用料の立替金の明細を、家族に郵送で報告している。持参の金は紛失事例があり、家族と相談の上、立替方法をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は、電話や面会時に受けることが多く、引き継ぎノートに記録して全職員が内容を共有し、運営に反映している。ほとんどが話し合いで解決することが多く、玄関に設置してある意見箱の活用はない。グループ便りで、いつでも苦情受け付けを伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配置転換の場合は、お手伝いのかたちで、異動前から馴染みの関係をつくる。また、採用の場合は、1か月以上、先輩職員が指導を兼ねて、ペアを組む。利用者一人ひとりに担当職員を決め、より深く状態・状況の把握に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、毎月1回、職員の意見を基に、テーマを決めて実施、内容に応じ講師の依頼もする。(脳梗塞、転倒、季節の行事他)外部研修の受講者は、内容をミーティングの際やコピー等で全職員に周知する。外部研修の受講者は一部の為、今後は全職員の受講を考えている。	○	全職員の段階的受講を考慮に入れ、年間計画に位置づけることを確実にし、学びの機会を多くすることで、職員の質の向上、サービスの質の向上につながることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターやグループホーム協会の勉強会に出席の際、交流を図っているが、充分とはいえない。地域のグループホーム間の連携を図ることを目的とし、情報交換の場を設ける為、同業者に積極的に働きかけることを検討中である。	○	管理者の積極的な働きかけにより、地域の同業者間の学習会や情報交換の場が定期的に設けられ、連携を図ることで、職員の質の向上、サービスの向上につながることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に管理者が自宅(または施設)を訪問し、意見や要望を聞く。また、ホームの見学や併設のデイサービスに通所してもらうなど、馴染みの関係を築いてからサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に洗濯物を干したり、たたんだり、おかずの味付けや掃除のコツを聞いたりする。また、昔の歌や季節の行事の由来を教えてもらったり、昔と今の町並みや暮らしぶりの変化を聞くこともある。若い職員が多いので、親から聞いているようで、学ぶ機会が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を大切に、日々の暮らしぶりの中で、声かけをしながら、把握に努めている。把握が困難な場合は、日常の行動や表情の中から汲みとったり、また、家族に連絡をして相談しながら、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき、本人や家族から意見や要望を聞き、各担当者で話し合いをしながら、計画作成担当者が計画を作成する。内容は、全職員が共有し、個別にファイルしてある。また、家族から同意のサインも得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月に1度、モニタリングを行い、引き継ぎノートの活用や職員の意見を参考に、各担当者で話し合い、見直しの計画を作成し、家族から同意のサインを得ている。また、毎月のミーティングや引き継ぎノートで確認し、状態や状況に変化が生じた場合は、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わり通院や個人的な買い物に同行している。家族の入院先へ見舞いに同行したり、その他、毎年、別荘へ外泊する為の支援等、要望に応じて柔軟な対応に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々にかかりつけ医を持ち、家族が同行し受診している。受診の際は、家族に同意を得て用意してある情報提供書(ホーム内での身体状況を記録した用紙)を持参してもらい、適切な診療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を定め、本人や家族から、その内容に理解は得られているものの、体制の確立には至っていない。理由としては、かかりつけ医や協力医療機関等の24時間連携の協力が得られていない。また、職員の知識と技術が不十分で、適切な対応が無理である。現在、新設の開業医に協力を交渉中である。	○	重度化した場合、本人や家族の意向を確認し、終末期を安全で安心して過ごすことができるよう、医師や看護師、関係者がその方針を共有し、支援することが重要である。体制確立の早期実現を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録簿は、事務所のロッカーにて鍵をかけ、保管している。着替えは周囲に配慮し、居室で行い、入浴もカーテンを閉めるなど、本人の誇りを尊重した支援を行っている。言葉づかいや対応について、ミーティングの際、確認するが、現場において、その場で指導することもある。	○	日常的に、一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを損ねないよう、言葉かけや対応には、細心の気配りをすることが大切である。人権と尊厳の保持に努めることを、全職員が共有し、プライバシー確保の徹底を図ることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴を大切に、その人らしく過ごしてもらえよう、起床、食事、入浴時間等、本人のペースに合わせた暮らしの支援に努めている。また、部屋での食事を希望した時や、レクリエーションへの参加等、体調に配慮しながら、その時々気持ちを尊重し、柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に、食材の切り方や味付け等を聞きながら、準備から後片付けまで、一緒に行っている。職員も一緒に食べ、盛り付け、味付け、食材等を話題にしながら、さりげない介助と雰囲気づくりに努めている。また、菜園で穫れた野菜が食材となることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午前2時間と午後1時間の時間帯はあるが、本人の希望があれば、いつでも可能である。拒否の場合は、汗や汚れを理由に、脱衣場で着替えの促しをすると、入浴につながることもある。また、足浴や清拭で対応することもある。今後、夜間の入浴も検討中である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物の干しやたたみ、菜園の手入れや収穫、掃除等の他、読み聞かせ(元教師)、踊りの指導(元日舞の先生)等、個々の得意分野で力を発揮してもらえるよう、場面作りに努めている。また、職員のピアノ伴奏で、歌ったり、講師を招き音楽療法(回想法)も取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物その他、梅や桜、れんげの花見、公園、道の駅等にドライブを兼ねて出かけ、弁当を持参したり、外食も楽しむ。気候のよい時期には、回数を多くし、季節感を肌で感じてもらうよう努めている。また、併設のデイサービスの利用者と交流することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵をかけず、出入りは自由となっている。職員は鍵をかけない支援に対し、認識を共有しており、気配を感じたら、声かけや見守りの徹底に努めている。2階フロア入口は、転倒例があり、チャイムが設置されている。2階からはエレベーターで移動することが多い。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立ち合いのもと、昼夜を想定した防災訓練を、併設のデイサービスと合同で行っている。(出火場所を想定し、避難経路、水の入った消火器の使用方法等の指導)、また、地元消防団からは万が一に備え、協力の確認が得られている。マニュアルもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、食材業者の栄養士に依頼しているが、利用者の状態や状況を相談したり、誕生日会、季節の行事を始め、利用者の好みを伝え、取り入れている。また、体調に合わせ、家族持参の食事をすることもある。食事量、水分量は記録し、月1度、体重測定を行い、健康チェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には花、テレビ、ソファ、調度品が置かれ、時計や暦も見やすい位置にある。壁には、行事や外出時の写真も飾られ、食堂のテーブルや椅子も、ゆったりと配置されている。個々の居場所は、自由に確保されやすい。台所、浴室、トイレも違和感はない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローリングと3畳の組み合わせの居室には、洗面台もある。ベッドや馴染みの家具、調度品、仏壇等が持ち込まれ、自作の作品や家族の写真が飾られている。また、畳部分に炬燵が置かれている等、その人らしく落ち着いて過ごせるよう、工夫と配慮がされている。		